

第6回BOX展 - 30cm×30cm×30cmの空間を遊ぶ -

開催報告

今回も多くのご応募をいただき、出品者の方々、各方面の皆様にはご協力をいただき感謝申し上げます。

1、事業企画名：第6回BOX展—30cm×30cm×30cmの空間を遊ぶ—

2、企画内容：30cm×30cm×30cm立方空間を自由に使用した作品による展覧会。平面・立体・表現方法は問いません。

3、目的・対象：国籍、年齢、プロ、アマ、aaca会員、一般参加を問わず募集し、建築・美術・工芸など様々なジャンルと自由な素材を使用した、多様な表現の場となり、交流の場となることを目指しています。優秀な作品と人気作品には賞状と協賛各社の副賞を授与。作品制作を応援しaacaの活動の一環として社会的な意義を広め高める事を目的としています。

4、会期：2023（令和5）年6月3日（土）～9日（金）
表彰式：6月9日（金）

5、搬入：2023（令和5）年6月2日（金）10時～
搬出：2023（令和5）年6月9日（金）16時～

6、会場：建築会館1Fギャラリー

7、受賞者

最優秀賞：神まさこ（会員）	「終結」
優秀賞：横沢和則（一般）	「青の痕跡」
中嶋クミ（一般）	「VOID」
特別賞：阿部剛士（一般）	「1945・H」
佳作：池田嘉文（会員）	「マドリガル」
熊木真由美（会員）	「作品」
齋藤潮美（一般）	「思陵 Lang Donh khanh」
笹岡かおり（一般）	「ヒツジの部屋」
北村うた（学生）	「JAZZ」
オーディエンス賞 鈴木法明（会員）	「1/2」

選出方法は、審査員の点数の合計点。オーディエンス賞は、来場者の投票による集計の最高得票作品。

フォーラム委員会

8、審査員：aaca副会長 岩井光男（審査委員長）

総務委員会委員長 二本柳 敏、会員交流委員会委員長 青木崇、文化事業委員会委員長 木村 慶太、表彰委員会委員長 可児 才介、情報文化研究委員会委員長 露口 典子、フォーラム委員会委員長 萩尾昌則、広報委員会委員長 飯田郷介、会員増強委員会委員長 芝山哲也

9、協賛：株式会社アトリエトラベル、株式会社エフワンエヌ、大成建設株式会社、横浜ビル建材株式会社、株式会社クサカベ、株式会社文房堂、株式会社名村大成堂、クラフトー2、光ステンド工房

10、実行委員：フォーラム委員会 飯田郷介

11、応募点数：42点（会員24点、一般17点、学生1点）

12、来場者数：230名

（敬称略）



日本建築美術工芸協会副会長
BOX展審査委員長
岩井光男

第6回BOX展を顧みて

今年も多くの方々にご参加をいただき楽しいBOX展になりました。作品を展示していただいた作家の皆様、BOX展をご高覧頂いた皆様に心からお礼申し上げます。一辺30cmの立方体の限られた空間でのアートですが、作家によって表現されるものはその枠に制限されない自由で、世界に一つしかないオリジナリティを感じました。今年、BOX展は第6回となりますが、毎年参加していただく作家は今年、どんな作品を出してくれるのだろうか、新しく参加してくれる作家はどんな人だろうか、作家と作品との出会いが楽しみなBOX展になってきたように感じています。このBOX展における作品の各賞は作品をご覧になったギャラリーとaacaの会員の投票による人気投票で決まります。多様性が重視される時代、人々がアートから受けるものは一様ではありません。ここでは私が作品に感じたことを少し述べさせていただきます。最優秀賞の神まさこさんの「集結」は、金色の網を重ねた上に錫を溶かして落とした空間的な動きがよく表現された作品で、皆さんに支持されたと思います。金色に銀色でとても華やかな感じもしますし、色々な感じを受けますと思いますが、私自身は、福島原子力発電所の原子炉で燃料棒が溶けて下に落ちているというようなイメージを持ち、現代の色々な社会的な問題を凝縮させた作品というように感じました。次に優秀賞の横沢和則さんの「青の痕跡」は、コロナ禍の中で毎日、毎日感染者の数が棒グラフで出てくるということをイメージしてこのような作品になったということですが、これも時代を表現した作品だと思います。同じく優秀賞の中嶋クミさんの「VOID」は、ガラスという素材をうまく作品に取り入れ、穴を覗くと色々な光の屈折から空間を感じるということで大変面白い作品ではないかと思います。特別賞の阿部剛土さんの「1945・H」は、ハンガーとクリップを使った空間表

現で、見る人を終戦時へタイムスリップさせ、ノスタルジーを感じさせる作品でした。佳作の池田嘉文さんの「マドリガル」は繊細な作品で6人の女性が踊る姿を非常に軽やかに感じるようなリズムカルな作品で心が楽しくなる作品でした。熊木真由美さんの「作品」は、布を使い、布が生きているような構成で面白く感じました。齋藤潮美さんの「思陵 Lang Donh khanh」は、漆、和紙を使い、中国の古典的な空間を表現したもので、見る人を古い時代に誘うような作品でした。笹岡かおりさんの「ヒツジの部屋」は、羊毛をいつも使っていただいて、今度も非常にファンタジックな空間を作って、作品の前に立って見ると大変心が和む、楽しい時間を過ごせそうな作品だと思いました。北村うたさんの「JAZZ」は、白い一枚の紙を立体的なものにしているという作品ですが、1枚の紙で立体的につくるというのは大変難しいことです。北村さんはまだ高校生ですがaacaの展覧会にこのような若い人がチャレンジしてくれることは大変素晴らしいことだと思います。オーディエンス賞の鈴木法明さんの「1/2」は、いつもながらの大変エネルギッシュな作品を出していただきましたが、今回は今までとは違った鈴木さんの側面も拝見させて頂きました。以上私の感想を述べさせていただきます。地球温暖化による環境問題、食糧問題、パンデミックなど私達が住む環境は悪くなるばかりですが、そんな社会を明るくするのはアートの力ではないかと考えています。みなさんの作品を見させていただき、ガラス、布、紙、皮革、金属などいろいろな素材を使いアート作品を自在に創り出す作家の方々の力が今の世の中で期待されているのではと感じました。皆さんのご協力によって第6回BOX展は大変盛り上がり、楽しいものになりました。どうもありがとうございました。

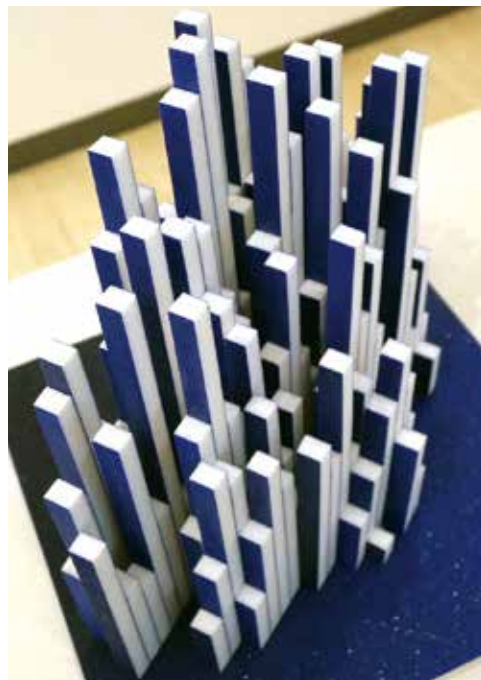


●最優秀賞



神まさこ 集結
錫・メッキ金

●優秀賞



横沢和則 青の痕跡
硬質発泡アクリル 他

●優秀賞



中嶋クミ VOID
ガラス

●特別賞



阿部剛士 1945・H
ハンガー・ゼムクリップ・ダブルクリップ 他

●オーディエンス賞



鈴木法明 1/2
ステンレス ペイント

●佳作



池田嘉文 マドリガル
FRP ステンレス

●佳作



北村うた JAZZ.
ケント紙

●佳作



熊木真由美 作品
布

●佳作



笹岡かおり ヒツジの部屋
羊毛 ワイヤー

●佳作



齋藤潮美 "思陵 Lang Donh Khanh"
漆・和紙

出品作品



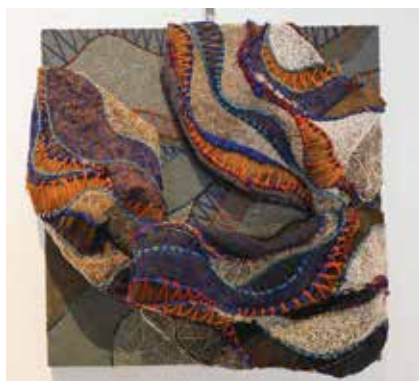
山崎哲夫 耀 (かがやぎ)
スプルース・檜他



飯田郷介 SDGs 続けられますか
プラスチック



池田嘉文 AwAken (目覚め)
ブロンズ・鉄



高須好子 流 (りゅう)
布地 糸



山崎和子 Time on Time C
布



西 幸恵 KA・KI・TSU・BA・TA
木枠 イラストボード 他



大河内久子 月夜に
FRP・イラストレーションボード



久野博美 森の妖精
絹・綿・刺繍糸他



鈴木法明 威嚇 (イカク)
チタン

出品作品



山崎輝子 待ち合わせ
アルミ板・レザー・小枝



松本治子 甦るジプシーガール
大理石・ズマルト・モルタル



五十嵐通代 溶化
生糸・テグス・他



青木峰男 9Hole Golf Club
陶土・ガラス・他



齋藤卯乃 生命の模様
漆



柏尾 栄 憧れのLucie
陶器



五十嵐里美 深い海
麻布・和紙・糸



平山健雄 迷路空間
ガラス



渡辺雅子 Worlds Apart Fair
ミクストテクスチャ



上江洲牧子 箱庭 考察
ガラス・鏡・植物・他



神 芳子 窓のない家
藤



品川未知子 Spring
アクリルボックス・布染・刺繍



寺本沙香江 宇想
創作フェルト・金属



上村伴子 Cubic Miracle
シナベニヤ・他



深尾雅子 Are you Human ? or A.I. ?
ウール・糸・他



高橋衣純 風の向こう
スパークオーガンジー



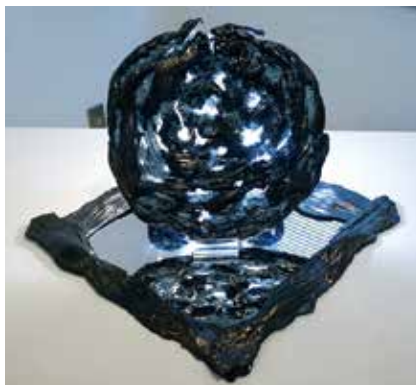
青木明美 ふくろう
紙



隈井純子 Siesta 戦士の休息
銅・布・木



青木邦真 縄文球
テラコッタ



須齋尚子 SPARKLE ~ Magic of Light
陶土・ガラス



金原京子 雷雲
ペットボトル・木・他



岡本 賢 作品Y
陶器



稲垣ひろこ 幻影の森~ Phantom Forest ~
FRP・アクリル板・水彩紙

最優秀賞を受賞して

造形作家
現代工芸美術家協会本会員
日本建築美術工芸協会会員
神まさこ



この度は、思いもかけず最優秀賞を頂戴し、誠に光栄に思います。まだまだ至りませんが審査して下さった先生方々、会を運営して下さった方々に心より感謝いたします。皆様様に貴重なご講評を頂きました事を心して、精進したいと考えております。

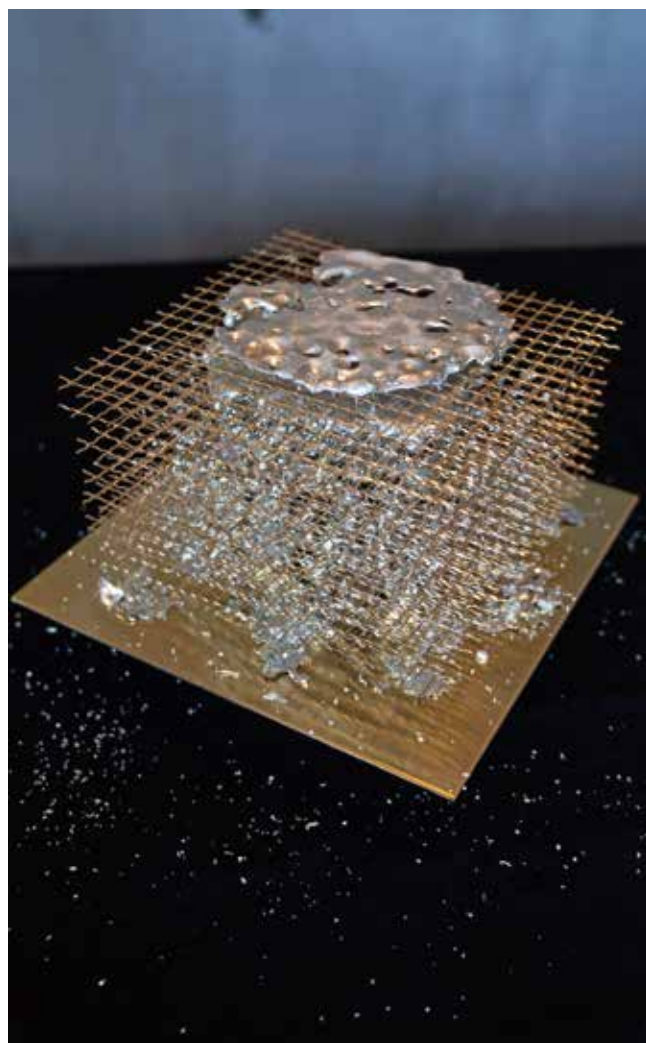
BOX 展は奥深く、毎年多くのことを考えさせられます。単に30センチ以内の作品を作れば良いというわけではなく、その大きさに合った表現を模索する必要があります。それから、自分への課題として、毎回違う素材で制作すると決めていきます。なぜなら、私は、その方が一つの素材にとらわれず、より純粹に自分の表現と向き合えるからです。

今回の作品は、素材として金色の網と錫を使い、無機質な網と、際限なく形を変容させる錫との対比を活かしてみようと考えました。

通常は固体として存在する錫が、熱により液体と化し、金網の隙間を絡み落ち固まっていく。その一瞬を捉えることが、私にとって大きな挑戦でした。静が動となり、一滴ごとに緊張が伴う、集中力と忍耐力が必要な制作となりました。

搬入日が迫る中、今回の地道な制作は焦りや苦悶が多いものでしたが、次へと繋がる大きな一歩にもなりました。この一滴ごとに錫の雫を見守る作業は、己と向き合う修行のような制作ですが、さらに挑戦したく次の制作も始めています。

また、BOX 展は自分の作品と他の作家さんの作品との関係性を考える機会にもなりました。同じ枠組みの中で、様々な表現が生まれるのを目の当たりにし、多くの刺激を受けました。最後に、このような素晴らしい機会を与えて下さった主宰者の方々、参加された作家の方々に、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。



《集結》

特別賞を受賞して

大成建設株式会社 品質管理本部
東海大学建築都市学部建築学科非常勤講師
現代美術家
日本建築美術工芸協会法人会員
阿部剛士

2023年の第6回BOX展にて、特別賞をいただき、驚きとともに喜びを感じております。

2009年より美術活動を開始し、各地のアートプロジェクトやアーティストレジデンスにて作品を発表。一昨年から横浜関内の共同スタジオにて製作活動を行っておりますが、今回のような公募展に出展するのは初めてとなります。

・作品製作のコンセプト

40代前半まで建築現場の監督をしており、建物を作る段階（もしくは何かを製造した段階）での各種廃材や工業製品、部品、使用済みの製品等という生産や工業での発展に伴う廃棄物に対して「美術の介入により何かに再生できないだろうか？」が作品製作発想の原点であり、もともと存在した製品に対してその素材が極力判るようになるべく「チープ」に製作するよう心がけています。



この写真は2010年に都筑アートプロジェクトに出展した「盆栽MH」という作品で、横浜市のマンホールの穴や隙間に苔や小石が入っている姿が盆栽に見えたことから思いつきましたが、横浜市のマンホールが売っていないので、実物をフロッタージュ、12mmベニヤに転写して切出し刀で掘り、工業用漆を5層塗り重ねて錆鉄色を再現しました。横浜の都筑民家園の庭に展示しましたが、残念な事に鑑賞に来た知人の多くから「作品がどこにあるか判らなかつた！」との苦情がよせられて、「秘密兵器」が秘密で終わってしまった作品です。

・今回の作品について

① BOX展主旨である「30センチスクエア」を守る。

以前、針金ハンガーでのフレーム作品を製作した事から今

回1辺30センチの針金ハンガーを探し購入。展示後解体搬出が容易な様にダブルクリップにて固定してフレームを形成しました。

② 汎用製品で作品を形成する。

ライフワークとして「戦争」をテーマに製作をしています。その中でも「大東亜戦争時の空襲」に対して、B29をゼムクリップで作ってつづけており（横浜大空襲の全飛来機まで製作予定）、今回もそれをBOXの空間に飛来させました。



③ 作品タイトル「1945H」について

今年、広島に1か月ほど出張しておりましたが、広島は各所に「折鶴」がアイコンとして存在。「平和」と「祈り」の象徴なのだろうか。故にタイトルは「1945」に「H」をつけました。また、下部はせんべいのスチール缶の蓋にマグネットシートを貼り、使用済みのホチキス針をエッチング腐食処理、広島の爆心地の地形に配置して、三角ゼムクリップで折鶴も飛ばしました。

